

地方連合規約が変わりました

宣教支援センターは連盟全国支援・地域協働プロジェクトの支援を受けて2015年5月に開所しました。連合規約上に宣教支援センターを位置づけることは将来の課題としてきました。プロジェクト前期4年目を迎え、積極的な取り組みの一環として、連合役員会では「教会強化」「地方連合の活性化」を目指す宣教支援センターを連合規約に規定することを目指しました。

9月30日(日)シオン山教会において連合臨時総会が開かれました。議事の結果、一部の文言を修正する条件で、連合規約改正案(施行規則改正案、役員選挙規程案含む)が賛成多数で承認されました。

宣教支援センター運営委員会は、連合の委員会活動の一つに位置づけられました。運営委員長は連合会長が兼務することになり、これまで以上に連合加入教会に資する働きが期待されます。

後期の宣教支援センター協働教会とは別に、宣教支援センター運営委員会のサポート教会を2019年1月に募集します。教会強化と連合活性化の働きを共に担ってくださる教会が複数起こされて、教会を新たに作る運動がさらに広がることを、私たちは祈り求めています。(連合会長 山崎克明)



連合臨時総会



編集後記

8月17日(金)から2日間の日程で、尚絅学院中学・高校を会場に全国壮年大会in仙台が開催され、菊岡義修連合壮年会長(東八幡)と参加させていただきました。約130名の参加でした。1日目夕食の時間に、西南神学部を代表して選科1年の千葉仁志神学生(小倉春ヶ丘)が献身の証しをしてくださいました。千葉神学生は岩手県陸前高田市のご出身。東日本大震災でご実家が被災。ボランティア活動を通して献身へと導かれたそうです。私は5年ぶりの前任地訪問となりました。懐かしい皆さんとの再会に励ましを受けました。(齊藤弘司)



全国壮年大会in仙台 千葉神学生

次回予告

巻頭言 伊藤光雄牧師(シオン山教会)

11月中旬～2019年1月の予定

- 11月14日(水)連盟定期総会(天城山荘) 16日まで
- 25日(日)バプテスト世界祈祷週間 2日まで
- 29日(木)宣教支援センター常任委員会(東八幡)
- 12月13日(木)連合役員会(富野)18時半

2019年

- 1月 1日(火)連合新年礼拝(シオン山) 説教：泉選也牧師
- 20日(日)宣教支援センター提案教会会議(シオン山)
- 1月26日(土)連合信徒研修会(シオン山) 講師：鈴木牧人牧師(姪浜)

宣教支援センターHP&Facebook

ニュースレターのバックナンバーを閲覧するにはパスワードが必要です。

HP : <http://bapkitaq.jimdo.com>
パスワード : kitag2015



連盟全国支援・地域協働プロジェクト バプテスト北九州地方連合 宣教支援センターニュース 30・31号合併号

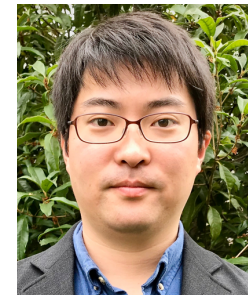


発行責任者：山崎克明
発行所：〒805-0015
北九州市八幡東区荒生田2-1-40
Tel&Fax：(093)651-6669
東八幡キリスト教会内
連合宣教支援センター事務局
発行日：2018年11月11日



居場所と出番のある教会づくり
～第3回連合まつり報告～
センター主事による伴走型支援 ～教会元気プラン～
連載 高齢者を喜ぶ教会になるために(2)
教会おじゃましますPart2 ～防府教会&小野田教会～
地方連合規約が変わりました

写真：「大分教会祈禱会」
(10/31 大分教会)



イエス様は、誰を真ん中に

大分教会牧師 村田 悦(大分教会)

2018年度の大分教会の宣教テーマは「イエス様は、誰を真ん中に」です。この宣教テーマは、昨年度の宣教テーマ「キリストの教会を目指して」という果てなきプロセスの一つとして与えられたテーマです。

昨年度は、掲げたテーマのもと、宣教支援センター「教会の自己診断スケール」に取り組みました。2ヶ月に1回行われる全体会を利用して、8月と10月は実際に自己診断を行い、12月にはその結果を受けて課題を抽出する作業を行いました。2月には、課題に優先順位をつけ、次年度優先的に取り組む課題を決めました。「礼拝奉仕を見直す」「皆で讃美を献げる」「新来者を招く」の3つです。3つの課題に共通しているのは「礼拝」だと思いました。改めて、自分たちは「礼拝」を大事にしたいのだと感じました。

しかし、そんな時、マルコ2：23～28のみ言葉と出会いました。そこには、安息日規定を忠実に守ることが安息日を真に安息日足らしめると考えていたファリサイ派の人々が登場します。彼らに対してイエス様は、「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。」(マルコ2：27)と言われました。頭を叩かれたような想いになりました。安息日が大事だという律法学者と、私たちの姿が重なって思えたからです。

「礼拝が大事！」と叫んでいるだけではいけないと思いました。礼拝を真ん中に置くのではなく、人が真ん中にいるようにという促しを感じました。

「キリストの教会を目指す」以上、教会の真ん中はキリストです。でも、そう言いながら、教会の真ん中には誰がいるでしょうか。礼拝や教会学校、祈禱会…あらゆる活動は、誰を真ん中にして考えられているでしょうか。意外に「自分」かもしれません。

イエス様は、時に「手の萎えた人」(マルコ3：3)を、時に「一人の子ども」(マルコ9：36)を人々の真ん中に立たせました。キリストが真ん中であるが故に、教会は、キリストが真ん中へと招く人々を、教会の真ん中に立てるのです。今という時代、私たちが生きる社会・地域の中で、誰を真ん中に立てて、教会を形成していくよう招かれているのか。私たちは、この問いに導かれながら、教会を形成していきたいと思っています。

居場所と出番のある教会づくり 連合まつり報告

10月8日(月)シオン山教会を会場に、第3回バプテスト北九州地方連合まつりを開催しました。連合内20教会、連合外3教会から145名の皆様をお迎えすることができました。

今回のテーマは「20年後の北九州地方連合そして私たちの教会」。連盟宣教部が推進している「協力伝道会議」を兼ねての開催ということで、吉高叶連盟常務理事、城前和徳地区宣教主事、徳淵敬尚地区宣教主事が参加してくださいました。

開会礼拝の宣教は、防府教会の山時松江教会主事でした。ルカ福音書の「善いサマリア人」の場面から、「すこしだけおせっかいします～地域のコーディネーターになる」というミッションステートメントを定めたこと。隣人との出会いを通して、教会が助けられていることを証してくださいました。

全体討議の司会は本山大輔牧師(豊前)でした。まず山崎克明連合会長から、北九州市の人口動態から見えてくる宣教地の現状についての報告がありました。単身世帯が急速に増えていること、若年層の離婚率の高さが際立っていることを知りました。斉藤弘司センター主事は、分断の時代にあって、地域の中で居場所と出番を失っている方が多い現状を紹介しながら、開かれた教会づくりを訴えました。吉高叶連盟常務理事は、キリスト教会が社会的マイノリティの側に立つことの大切さを訴えるとともに、身の丈にあった連盟の機構改革に着手しなければならない理由を説明してくださいました。

休憩を挟んで後半は、光教会+シオン山教会、臼杵教会、東八幡教会からの発題を聞きました。光教会は少人数の群れとなり、新たな牧師招聘が難しくなりました。そこでシオン山教会の助けを借りて歩むことを決めて、月1回の合同祈禱会と連合による宣教応援が始まりました。臼杵教会は宣教開始70年を目前に控え、会堂・牧師館の補修をすべく、大分地区の諸教会と祈りを合わせています。東八幡教会は教会に来ることのできない方がたつながらることを目指して、アウトリーチの事柄として「星の下伝道」(インターネットによる登録制礼拝動画配信サービス)に取り組んでいます。

昼食を挟んで、午後はグループ討議の時間をもちました。20年後のご自分の教会を意識しながら、危機感を共有する中で、教会どうしの助け合いを当たり前のことにしていく必要性に気付かされた様子でした。また、献身者の掘り起こしについても複数のグループで熱く語られていました。牧師がいるのが当たり前の時代がそう長くは続かないことを吉高常務理事のお話で聞かされて、驚いたという方が少なくなかったようです。宣教支援センターを開所した当初に、常任委員会で語り合っていたことが、ようやく諸教会の皆さんに浸透してきた手ごたえのようなものを感じることができました。

子ども達は初めての試みとして、北九州YMCAから学童保育リーダーの方に来ていただいたのプログラムを企画しました。とりわけ午後は西南女学院のご厚意で第2体育館をお借りすることができて、おもいきり体を動かす遊びを楽しみました。

助言者に吉高路姉(市川八幡)をお迎えしての小羊会リーダー研修会は初めての試みでしたが、日ごろの子ども達とのかかわりにおいて思わされていることを和やかな雰囲気の中で語り合うことができたそうです。16名の参加でした。

恒例の北九連マルシェ(バザー)は10の教会・各会が出店して、大いに盛り上がりました。会場教会のシオン山教会、西南女学院のご協力に心からの感謝を申し上げます。(山田雄次)



センター主事による伴走型支援 ～教会元気プラン～

宣教支援センターでは2016年度から、年間通してセンター主事の伴走を受けながら、自分たちの教会の課題解決に取り組む「教会元気プラン」運動を推進しています。

これは宣教支援センターが当該教会に指示的にかかわるのではなく、センター主事との対話を通して、当該教会が課題そのものに気付いて改善の道筋を考えるプロセスを、戦略的に支援するプログラムです。2か月に1回開いている宣教支援センター常任委員会で、センター主事からの報告をもとに効果的な支援策を話し合い、オーダーメイドで対応しています。

2018年度は富野教会、東八幡教会、南小倉教会(2年目)に、センター主事が伴走しています。昨年度までにセンター主事が伴走させていただいた防府・枝光・南小倉の各教会は、いずれも礼拝出席30名以内の教会でした。「教会元気プラン」運動は、各個教会の支援だけでなく、近隣教会とのかかわりにおいてセンター的な役割を果たすことが期待される教会をもう一段階成長させることも目指しています。東八幡教会は、後者の理由でかかわりを持たせていただいている教会です。



枝光教会 教会おじゃまします



防府教会 教会元気プラン

富野教会 ～伝道開始70周年に向けて～

富野教会は2020年度に伝道開始70周年を迎えます。2017年9月に、宣教支援センターが開発した「教会の自己診断スケール」を使って自己分析した結果、2003年1月に制定した「教会の信仰告白」がほとんど読み返されていないことに気付きました。70周年の節目に、自分たちの教会が何を大事にしていくのかを見つめ直したいという機運が高まっています。

9月9日(日)午後には、南小倉教会の谷本仰牧師、大磯晴架姉、宮崎千恵姉をお招きして、教会研修会を行いました。19名が参加し、南小倉教会信仰告白ができるまでのお話を伺いました。牧師主導ではなく、教会員が何を大事にしているのかを丁寧に聞き取ることで、我が事と思える信仰告白を生み出していった経過を、共に学び合うことができました。

富野教会には10周年を迎えた「いきいきサロン」(ご高齢の方とご家族に居場所を提供するプログラム)や、旧幼稚園舎を利用している北九州YMCA「のびのびクラブ富野」(障がい児向けの放課後等デイサービス)との協力関係があります。教会音楽の活動も盛んです。隣人の「いのち」を喜び合うための教会形成をどのように進めていくか。一つの方向性を見出すことができればと考えています。



富野教会 教会元気プラン



南小倉教会との研修会

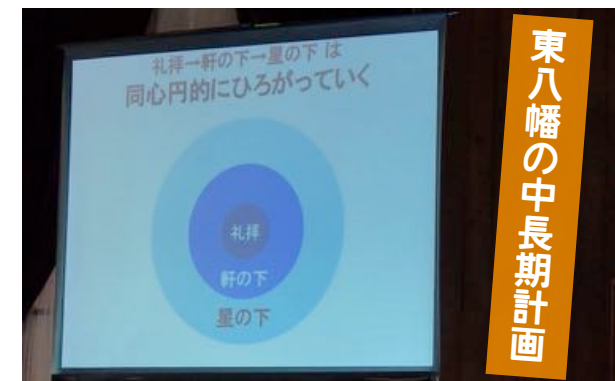
東八幡教会 ～中長期計画(6か年計画)を仕上げる～

東八幡教会は、2014年に念願の新会堂ができてから、礼拝堂を取り囲む「軒の下」のスペースを使っの荒生田塾を始めました。最近では沢知恵さんコンサートや、3か月に1回の語り場Barが好評を博しています。今年9月には「星の下@東八幡教会」ホームページを新設しました。教会に来ることのできない方に奥田牧師の最新メッセージを含む礼拝動画をお届けする試みです。双方向性を保つため、登録制にしました。「礼拝」を中心に「軒の下」「星の下」が同心円状に広がる教会形成を目指します。

8月9日(木)から2泊3日で、「第1回プレディガーゼミナールin北九州」を開催しました。これは東八幡教会が長年にわたり願ってきた、キリスト教会を支える人材育成の試みです。ドイツの神学者ボンヘッファーが「闘う牧師」を養成するために開いた牧師研修所の名前をいただいて、若手牧師・神学生のための相互研鑽のプログラムを企画しました。今回はゲスト講師に関田寛雄先生をお迎えして、牧会者の霊性についての学びを深めることができました。神学生3名を含む15名が参加しました。来年度以降も継続して開催する予定です。今後、神学生や新卒牧師の研修も受け入れたいと考えています。これらの内容を含む中長期計画を今年度中に仕上げ、2019年3月の計画総会に提案します。



プレディガーゼミナールin北九州



東八幡の中長期計画

南小倉教会 ～みんなの教会を目指して～

2017年度に「教会の信仰告白」の仕上げについて相談にのってほしいとお申し出をいただいて、南小倉教会とかわらせていただきました。「教会の信仰告白」に明記した「みんなの教会」という言葉が、その後の教会の在り様を大きく変えていったことから、2018年度もかわらせていただいています。

2017年11月から「聖書講座」が始まりました。谷本牧師が20年近く教鞭を執った西南女学院大学での講義を、昼の部は月1回、夜の部は隔月1回のペースで学んでいます。この9月に第1部創世記の学びが終わりました。ご近所にお住まいの方がたが連れ立って参加してくださっています。

「いのちの大切さ」を訴え続けることも、「教会の信仰告白」がことば化した事柄のひとつです。2018年1月14日(日)に到津の森公園(動物園)の獣医師をお招きして開催した「いのちのおはなし」には、約60名もの参加がありました。いわゆる特別伝道集会ではない形の企画が好評だったことから、8月11日(土)に関田寛雄先生をお招きして「いのちと希望のはなし」を開催しました。関田先生が愛してやまない「寅さん」が語る希望についてのお話で、約30名の参加でした。こちらも日曜の礼拝にいらしていない方のお姿が多かったです。南小倉教会のチャレンジはこれからも続きます。



いのちと希望のはなし



聖書講座

連載 ご高齢の方を喜ぶ教会になるために(2)

1月21日(日)にシオン山教会で行われた第3回宣教支援センター運営委員会の中で、ひさしぶりにワールドカフェ形式の対話プログラムを行いました。テーマは「教会員の高齢化は問題なのか?」。

6つのグループが記録してくださった模造紙の中には、ご高齢の方を喜ぶ教会になるための手がかりがたくさん詰まっていました。宣教支援センターニュース27号に第1回の記事を載せました。間が空いてしまいましたので、三つのトピックの一つ目を振り返ってから、二つ目をご紹介します。

◆セッション1 教会でよく耳にするご高齢の皆さんのつづやきを集めてみよう。

教会でしばしば耳にするご高齢の皆さんのつづやきを拾い集めるところから、グループ対話を始めました。共感しながら話し合う様子がそれぞれのテーブルで見られました。

問1 「教会でよく耳にするご高齢の皆さんのつづやき」を思いつくままに挙げてください。

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ・文字を読む気力が続かない | ・奉仕ができなくて申し訳ない |
| ・役員(執事)を下りたい | ・暑い(もしくは)寒い |
| ・忘れ物が多くなった | ・昔は良かった・教会内の移動が大変 |
| ・聞いとらん(=聞いていない) | ・一度決めたことを忘れてしまう |
| ・知らなかった | ・会議が長い |
| ・足腰が痛い | ・もっと献金したいけど余裕がない |
| ・すみません | ・掲示物が読めない |
| ・若い人とは話が合わない | ・「これで最後の・・・」を繰り返す |
| ・敬老礼拝のプレゼントは要らない | ・車の運転ができない |
| ・字が小さくて読めない | ・礼拝の「主の祈り」が速くてついていけない |
| ・送迎がないと不安 | ・淋しい |
| ・教会が忙しすぎる | |

◆セッション2 つづやきの背後に、ご高齢の皆さんのどんな気持ちがあるか想像してみよう。

つづやくからは、それなりの理由があります。背後にどのような思いがあるのかを想像してみることにしました。一つの傾向として「承認欲求が満たされていない」という課題が見えてきました。

問2 問1で出されたつづやきの中に、どのような思いがあるのか、想像してお答えください。

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------|
| ・今までできたことができなくて悔しい | ・教会の歩みを未来に残しておきたい |
| ・自分たちにできることは自分たちでやりたい | ・面倒なことはなるべくかわりたくない・子ども達とかわりたい |
| ・教会から必要とされていないような気がする | ・話し相手になってほしい |
| ・もっと大事にしてほしい | ・学びたい(教えたい) |
| ・高齢者しかいないので、できることをやるしかない | ・新しいことにチャレンジしたい |
| ・誰かの役に立ちたい | ・認めてほしい |
| ・間違いと迷惑をかけるので、そろそろ奉仕を代わってほしい(例：教会会計) | ・ほめられたい |

連載の最終回ではセッション3「いのちを喜び合うために、私たちに今できること」をご紹介します。各教会で話題にさせていただけますとうれしく思います。

教会おじゃましますPart2 ～防府教会&小野田教会～

1)これまでの経過

伝道委員会と宣教支援センターでは、教会おじゃましますプロジェクトの今後について、話し合いを重ねてきました。

2018年8月から連合の新しい支援制度「交流プログラム支援」の募集が始まりました。これは二つ以上の教会が、相互交流や合同研修会などのプログラムを持つ時にかかる諸費用の一部(講師派遣費用、打合せ交通費など)を応援しようという制度です。実際どのように交流を進めたらよいか分からないというご意見や、教会の宣教協力について学びたいという積極的なご意見も頂戴しております。

そこで既に教会協働を始めている教会をお訪ねして、恵みを分かち合っていた目的で、教会おじゃましますPart2をスタートすることにしました。年間3～4回の開催を考えています。

Part1との大きな違いは1時間30分のプログラムを、主催する教会が企画・運営することです。礼拝の有無、席上献金の有無、プログラムの内容を、自分たちで話し合いながら進めていただくことになります。茶菓の提供と広報は、引き続き伝道委員会が担当いたします。

今後は、2019年2月に直方教会(遠賀川流域の高須・芦屋・直方・飯塚教会の主催)、2019年5月に大分教会(大分地区3教会の主催)をお訪ねする計画です。詳しい日時は追ってご連絡します。どうぞご期待ください。



2)第1回 防府教会&小野田教会

9月6日(木)は防府教会を訪問させていただきました。5教会から31名の参加がありました。

初めに防府教会と小野田教会の有志による呼びかけを聴きました。防府教会の皆さんは、戸畑教会の閉鎖感謝礼拝に出席した時に、明日は我が身と思っていたそうです。小野田教会は現在会員4名ですが、毎週欠かさず礼拝と祈禱会を守っています。お互いつまで続けられるだろうかとの思いのうちに、合同祈禱会をするところから交流を始めたのだそうです。キーワードは「出かけよう」。出会うことで、自分の教会だけが崖っぷちにあるのではないこと、それぞれにキリストの御業が行われていることを知って、力をいただくことができたとお話でした。

佐野太牧師による奨励に続いて、グループ毎にお茶をいただきながら分かち合いの時を持ちました。「今までは各個教会主義ということで自己責任のように思ってきた。協力伝道は連盟や連合のことだけでなく、足元の助け合いを含んでいるのだということに改めて気付かされました」。「久山療育園のタオルエプロン作りや学習支援の活動に、地域から支援者が与えられていることに驚かされた」等の感想が聴かれました。防府教会と小野田教会の皆さんありがとうございました。